

27 教員公務員としての自覚

研究授業の発表会があり、その慰労会で市内の会場に行ったときの話です。宴もたけなわとなり、ベテラン教諭が「あの発問が良かったね」と授業に関する話が盛り上がりました。そして、つい子どもたちの名前や家庭環境の話までに話題が及び、教育論に熱が入ってしまいました。ところが、ふすま1枚隔った隣の部屋でPTA役員の保護者を発見してびっくりです。



● マイナスポイント

公立私立問わず、教師には「守秘義務」が課せられています。どのような場であっても職場での出来事を口外することは厳に慎まなければなりません。特に直接、教師から発せられる児童に関することは誤解を与えがちとなります。どのようなささいなことであっても、発言しないという意識を持つことが肝心です。



コラム

千葉県教育委員会は「不祥事ゼロ」を目指し、「4万人の教職員のみなさんへ」として、以下のことを自問することを求めています。①自らの行動を家族に胸を張って話せるか、②見つからなければ大丈夫とっていないか、③第三者として新聞等で見たらどう思うか。

● アドバイス

慰労会等、酒席ではつい気が緩みがちとなり、勢い行動も声量も大きくなってしまふものです。市内という身近な場所では、誰が何を聞きしているか分かりません。知人ではないかもしれませんが、学校関係者ということもあります。気が緩む場面ではどうしても職場のことは出やすくなるものです。職場での話は職場で済ませることがトラブル防止となります。

● ステップアップ

校内での出来事は校内で解決するという意識を、教職員全員で共有することが重要です。個別的な情報については全員で共有すべき事項と、関係者のみで共有するという線引きを行う必要があります。特に校長、教頭、学年主任などと緊密な「ほう・れん・そう」が持たれることが重要となります。(86頁参照)



43 自己表現ができる

学年研究会では学年主任の方針に従って、学習指導や学年の行事の進め方が話し合われます。初めて学級担任になった内山先生は、そのときは「分かった」と思うのですが、一人になると「具体的にはどうするんだろう」「こんなやり方もいいのかな」と不安になってしまうのです。先生方が皆忙しそうにしているので質問や思いを伝えられずにいます。

● マイナスポイント

学年研究会は少人数ですし、会議とは言っても一番話しやすい会議の場です。時にはお茶を飲みながらということもあります。しかし、内容は子どもたちの学習や活動に直接関わることばかりです。教室に行けば子どもたちの前には自分だけです。

黙って聞いて分かったつもりになるという参加の仕方では、子どもの前に立ったときに、正しい説明や指導ができず、職責を果たせないことになります。

コラム

自己表現と自己主張は似て非なるものです。自己表現は、自分の考えや思いをいろいろな方法で表し、相手に理解してもらえるように努めることですが、自己主張は、自分の意見を言い張るので、相手より自分中心になります。表情や言葉遣い、服装なども自己表現の一つです。

● アドバイス

「聞いて分かったつもり」を一步進めて、確かな理解にする必要があります。まずは、資料を手元に置きましょう。職員会議の提案資料や学校経営計画、教科書などです。

次に、話し合いの進行に合わせてメモを書き加えていきます。疑問があれば、質問します。質問だけでなく確認も大切です。経験年数が違っていても担任としての責任は同じですから、疑問や不安を解消して、自信をもって仕事に取り組みましょう。

● ステップアップ

自己表現の第一歩は、日々の挨拶です。多くの先生方に挨拶をし、帰り際に「お先に失礼します」と出口で言うなど存在を示すことで、関係が広がります。経験不足を自覚しながらも、今の自分が考えることを表現していくことは、向上心を示すことにもなります。

まずは、自分から声を発していきましょう。ただし、主張すればよいというものではありません。考えを整理して分かりやすく丁寧に話すことを心がけます。

